

令和8年度 病害虫防除情報

令和8年9月18日
発表：福島県病害虫防除所

ハスモンヨトウの誘殺数が増加しています。
防除を徹底し、被害の発生を防ぎましょう。

- 1 対象作物：野菜類・花き類
- 2 病害虫：ハスモンヨトウ
- 3 対象地域：中通り・浜通り
- 4 発生量：やや多い
- 5 発生状況

- (1) 伊達市及び相馬市に設置したハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が、9月上旬から平年を上回って推移した（図1、2）。
- (2) 9月上旬頃から誘殺数が増加していることから、9月中旬には幼虫の発生量の増加が懸念される。

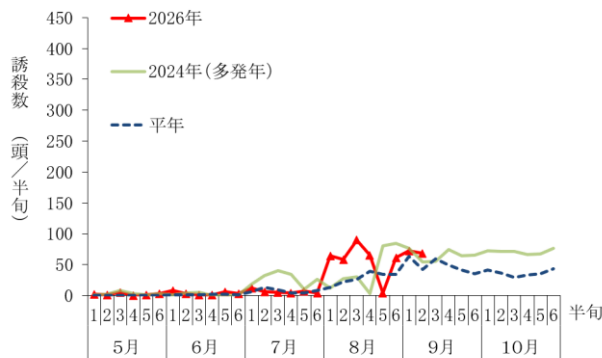


図1 フェロモントラップによる
ハスモンヨトウ誘殺状況
(伊達市保原町：イチゴ)

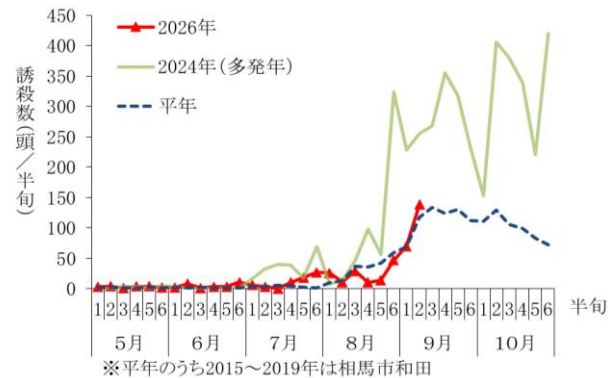


図2 フェロモントラップによる
ハスモンヨトウ誘殺状況
(相馬市南飯渕：イチゴ)

6 発生生態

- (1) 成虫（写真1）は卵塊で産卵する。
- (2) 若齢幼虫（写真2）は葉裏から集団で食害し、被害葉は表皮を残して白変する（写真3）。
- (3) 幼虫の齢期が進むと分散して加害範囲が広がる（写真4）。
- (4) 本種は休眠しないため、施設イチゴなど冬季に温度が保たれる施設では冬期間も発生・加害が続く。

7 防除対策

- (1) ほ場をよく観察し、白変葉や卵塊の早期発見に努めるとともに、若齢幼虫が分散する前に除去する。
- (2) 施設栽培では開口部に目合い4mm以下の防虫ネットを設置し、成虫の侵入を防止する。
露地栽培や防虫ネット未展張の施設では、成虫の産卵及び幼虫による食害に注意する。
- (3) 幼虫の齢期が進むと薬剤防除の効果が低下するため、防除は若齢幼虫期に実施する。特に施設イチゴやブロッコリー等では、定植後の早い時期の被害に注意する。



写真1 ハスモンヨトウ成虫



写真2 孵化直後の若齢幼虫（イチゴ）



写真3 イチゴの被害葉（白変葉）



写真4 ハスモンヨトウ終齢幼虫

●情報内容への質問や要望は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病虫害防除所）まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709

FAX 024-958-1727